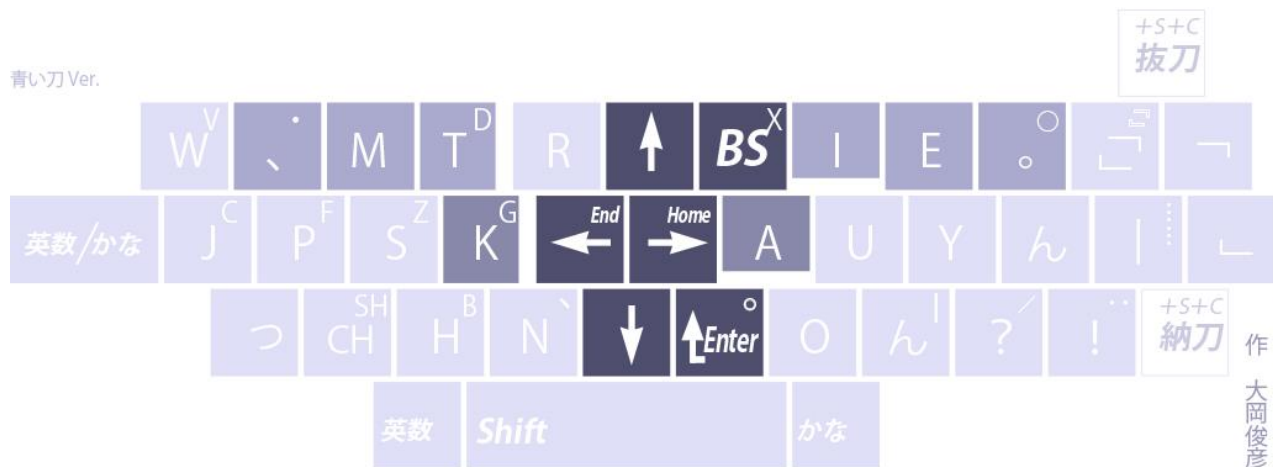


物語を書くための配列

カタナ式

作 大岡俊彦



カタナ式は、脚本家が作ったキー配列です。「縦書きの日本語入力」に特化しており、脚本家や小説家など、「一日数千字から一万字、文字打ちする人」を使い手に想定しています。普通のキーボード（QWERTY）上で使え、長時間、楽に、高速に、日本語を打つことを目的とします（横書き専用は、別途近日登場）。

「カタナ」の由来は、「ホームポジションからすぐ打てる言葉」から。今バージョンで右手内側が「A O I」に変わったので、「青い刀」版とします。

覚えるのに最初にする事はたったひとつ、「スペースキーがシフトキー代わりになる」こと！ KをGにするなど「濁音シフト」に使います。あとは触りながらで充分覚えられますでしょう。

本式の特徴は、「日本語が流れるように打てること」です。右手が母音、左手が子音を担当する左右交互打鍵方式ですが、配置に工夫があり、左右の手が無駄のないアルペジオ打鍵を多く含むようになっています。

また中央部にエンター／バックスペース／カーソルがあるのが最大の特長で、「漢字変換から編集まで入力」と考える設計です。

いつでも元のQWERTY配列に戻るよう、オン／オフ機能もあり。「Ctrl押しながら」はQWERTYに初期設定（Ctrl-SやZXCVFなどは、指が覚えるだろうから。設定で変更可能）。

——きみの心の刀は、何色か。

- | | | | |
|----|-------------------|-------|----|
| 一、 | 使いながら覚えよう | | 2 |
| 二、 | インストールと詳細仕様 | | 13 |
| | 付録 意識配分表、キーボードシール | | 19 |
| 三、 | なぜカタナ式は速いのか？ | | 22 |

一、使いながら覚えよう

カタナ式は Windows 専用です。Mac の人ごめんなさい。実装している Dvorak が対応すれば使えるでしょう。インストールと初期設定は二章を見てください。Wordなどを立ち上げ（縦書きモードで）、打ちながら覚えましょう。

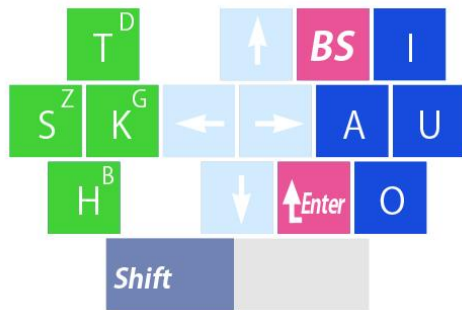
この図が、カタナ式の心臓部を示します。

右手のメイン母音部、左手のメイン子音部、およびカーソルキーが、ダイヤモンド状になっています（Eは日本語の母音の中で最も頻度が低いのでA I Uをメインとした）。右母音・左子音・真ん中操作系、と覚えてください。

赤で示したのが操作系で一番使う、エンターとバックスペースです。カーソルの脇にあり、右手人差し指で使います。

親指は濁音シフト（および変換）です。KをGにするときなどに使います。日本語で濁音になる子音はK T S Hの四つしかなく、それら四子音が十字に並んでいます。

ちなみに、このメイン八キーだけで日本語の七十%を打つことが可能です。

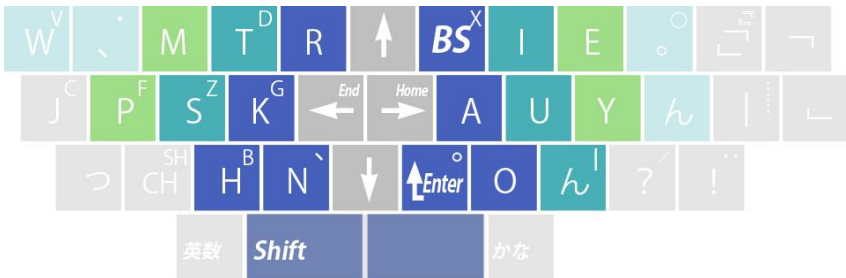


指使いの図です。

青は人差し指、青緑は中指、黄緑は薬指、水色は小指です。

人差し指が最も担当が多く、次いで中指です。薬指と小指はマイナーなもの担当なのがわかります。右利き用のため、操作系や記号など、右手の担当の方が多いです（配置を左右逆にした左利き用も近日登場）。

私たちが普段触っている QWERTY キーボードは、よく見ると左右非対称なのはご存知でしょうか。上図で左手中段のKを中心としたとき、T—K—NのラインとR—K—Hのラインの傾きが違うことをご確認ください。このため、厳密に左右対称に指使いを設定していません（左右完全対称キーボードが出たら、それ用にカタナ式は変化します。カタナ式はあくまで現行 QWERTY キーボード上で実装することを想定しています）。



○右手1 最初の音……あ い え

最も大事な右手の担当。

人差し指、中指、薬指で、「A I E」をそれぞれ覚えて下さい。



○右手2 五母音と撥音……う お ん / 第二「ん」

U、O、「ん」、第二「ん」を覚えましょう。

まずは五母音から。

主に人差し指中指で打つように、かつ母音同士が隣り合い、指がすぐに隣に行けるよう、高速化を念頭において配置されています。ローマ字では約二個おきに母音が出てくるので、母音の流れを打つ速度が打鍵速度の背骨になるからです。

また、「おう」「あい」「えい」という頻出二重母音が楽に打てることを確認してください。

「ん」は二つあります。小指（水色）の「ん」がメインです。「あん」「いん」「えん」「うん」の「ん」はこれが打ちやすいでしょう。第二「ん」は、「おん」に使うと楽です。弱い小指の負担を減らす為、第二「ん」が活用できます。運指によつては「あん」「うん」も第二「ん」のほうが必要な時があります。都度使い分けてください。

○右手3 拗音、長音…… やゆよ / ー

Yは子音ですが、「きょう」「きゅう」「しゃ」「しょう」「しゅう」などの、漢字二字熟語に頻出する拗音を打ちやすくするため、半母音という考え方で右手担当です。

長音「ー」はみつつ打ち方があります。

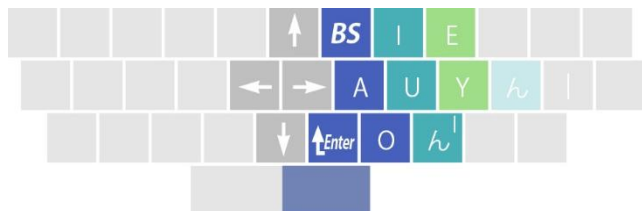
1 「ん」の横。(ちよつと遠い)

2 シフト+第二「ん」。(シフトが毎回は面倒)

3 次の母音系三つ同時押し。「AIE」「OUI」「AUY」「EUI」「EUO」同時押し判定は、「ひとつを押したままもう二つ」のように緩くしてあります。「長音は前の母音を伸ばした音」なので、「その母音を再び押し、残り二つを押す」と打ちやすいです。慣れたら指がそのままなので一番楽です。

「ターミネーター」(たとえば *ta(a+ie)mine(eta)ta(a+uy)*) も「ルーシリュウ」(たとえば *ru(u+oy)si(i+ae)ryu(u+oe)*) も恐くなくぜ。

○変換



変換のスペースキーは、右手(母音側)親指推奨です。カーソルで候補を選択、エンターで決定してください。間違えたらバックスペース。

「←」は右手人差し指では遠いので、左人差し指または右手の二本指で「→」「←」を使ってください(候補選択は、「スペース」(次候補)と「→」(前候補)を使えば右腕を動かさずに済みます)。

もう「ッターン！」は不要！ これからは「すつ」と確定！(とはいえ横のエンターも生きてるので、「ッターン」をしたい時はいつでもどうぞ)

例題

愛 青い 家 会う 合う 言う 上
あ あー 追う 王 負う オエー
案 暗 印 運 縁 怨 矢 夜 用

○左手1 最初の音……K T M

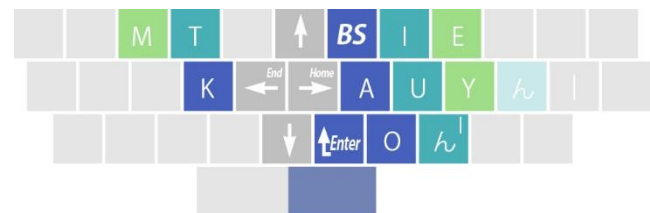
左手の子音を、ひとつずつ覚えましょう。

K（人差し指）、T（中指）、M（薬指）を覚えましょう。

「ち」は「ti」、「ちょう」は「tyou」推奨です。

例題

蚊 肩 玉 恋 コツ 口 来た 追悼
敵 答え 目 耳 頭 手 髪
調教 強調 教養 改定 凝った 毛糸 抵抗 簡単 冠婚
みかん もと きみ 高み 向かった 魔界 玉置 猛虎
良き事 役目 夜行 脚韻 貯金 奇妙 闊達 中間 明解
ミュー キュート コート もういや もういいや



☆便利テク……誤変換で確定してしまったとき！

「↑」キーで戻りつつ、「シフト↑」で再変換したい言葉の先頭まで選択。変換↓
ただし候補を選択↓エンターで確定↓「シフト↑（End）」で文末に。

○左手2 主要七子音……R N H S

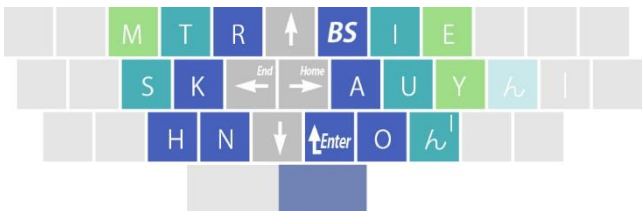
人差し指 R N H

中指 S

「し」は「si」、「しゅ」は「syu」「syou」推奨です。

例題

刀 田中 彼方 した する さくら カラス すると それから
それから この その あの これ それ あれ
ない なかった そう言うと そうした
スルー カール ハート 知識 遅刻 調整 闘争 中止 この先
男 ところ 女 泣いた赤鬼 その下 しない その時
ノウハウ 働く男 ノート 変態 回廊 脳神経 反論 搬出 頻出
見られた モナコ王国 なう 何するの 何すんの
放送 報酬 報告 押収 象徴天皇制奈良の鹿 大和の魂
夜に花の咲く家 夢の中に行かない ローマの休みの日



○左手3 濁音シフト……D G Z B

スペースキーを押せばなしにすると、シフト機能がわりになります (Sands: スペースアンドシフトという機能を使っています)。混乱を避ける為、左手(子音側)でスペース押しっぱ↓濁音シフト、右手(母音側)でスペース叩く↓変換や空白、と、左右で役割をわけるとよいですよ。

濁音D、G、Z、Bを覚えてください。

「じ」「ぢ」「じょう」は同様に「zi」「di」「zyou」推奨です。

例題

だが だがしかし でも 相談したいんですが 泥棒猫 事情
ジントニック 条件反射 地獄の沙汰も金次第 段違い平行棒
さんばら髪 九州男児 財前教授 ギャンブル がんばれ元氣
バカな人がぼろ雑巾 薔薇の名前 びっくり仰天新記録
そんな筈じゃなかったのに そんなつもりでもなかったのに

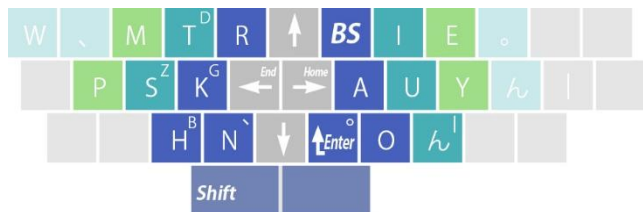


○句読点、その他

左薬指 P
左小指 「、」 W
右小指 「。」

これで純粋な日本語に必要な五十音と句読点が揃ったので、基本的な文章作成はできる筈です。小指は「端っこ」(W 「、」「。」「ん」「ー」と覚えましょう。

また入力を楽しむため、以下のものを用意しました。
右人差し指下段 「。+確定」(シフトエンター)
左人差し指下段 「、+確定」(シフトN)



文章を打つとき、次の二通りの打ち方がありません。

- 1 「文章1、文章2。」と一気に打って変換（小指の句読点使用）。
- 2 「文章1」を打ち変換、確定なら「、＋確定」。同様に「文章2」を打ち、変換、確定なら「。＋確定」。次へ（人差し指の句読点＋確定を使用）。

一気に文を打って変換→確定か、逐次打って「、」「。」と楔を打っていく感覚か、の違いです。左右の小指か、人差し指かで使い分けてください。句読点の頻度にもよりますが。

例題……川端康成「雪国」冒頭部

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。向こう側の座席から娘が立って来て、島村の前のガラス窓を落とした。

三島由紀夫「金閣寺」冒頭部

幼時から父は、私によく、金閣のことを語った。私の生まれたのは、舞鶴から東北の、日本海へ突き出たうらさびしい岬である。父の故郷はそこではなく、舞鶴東郊の志楽である。懇望されて、僧籍に入り、辺鄙な岬の寺の住職になり、その地で妻をもらって、私という子を設けた。

カタナ式は、次のような「基本的な日本語」がとても打ちやすくなっています。なぜでしょう。次頁で議論します。

ない これ この そう そうした そうして

した する でも したら から すれば どう そんなこと

ほのかに これから ところ しかない どうしても どの だが だれ

しかしかなり 知りたくて なんでもない 本当に 戻る気になれない

参考資料 高層ビル 象徴的な 三段跳び のつけから だいぶ キンキンに

懇意にした 冴えない人ね まっすぐな 純真 ころろ その時だった

もっと何かないのか 何度でも なんだろう こうしてる間に どっと疲れが

今日の献立 ノンジャンル スーパーマン

悲しみに雨が降る あいしてる ごろごろしてたら もうすぐ 想像力が足りない
たまらんこって 空 花 星 月 太陽 すべて 来た ばかにしないで

閑話休題 カタナ式とアルペジオ打鍵

カタナ式は左右交互打鍵方式です。左手が打っている間に右手は次の場所へ移動して、右手が打つ時左手は次の場所に……と左右が交互にお互いの隙を埋めていくため、交互打鍵は速いと言われています。

それに加えて、カタナ式では「左右の手を単独で見たとき、アルペジオ打鍵が多い」とが配列上の大きな特長です。

アルペジオ打鍵とは、同じ手の隣り合う指でタラツと打つ打ち方のことです。たとえば右手人差し指↓中指、中指↓人差し指、薬指↓中指などです。普通に二打打つよりも速く打てるのが特徴です。カタナ式では、「あい」「えい」「おう」「おん」、拗音「YA」「YU」「YO」がアルペジオ打鍵です（薬指↓人差し指と一本飛ばしも速ければアルペジオに含まれます）。

「左右の手がそれぞれアルペジオ」ということは、「手が殆ど動かなくていい」ことを意味します。

例文「地獄の沙汰も金次第」で見てください。

右手	I	O	U	O	A	O	A	E	I	A	I
	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪
	・	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪
左手	Z	G	K	N	S	T	M	K	N	S	D
	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪
	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪

「∪」アルペジオ打鍵 「∪」その手だけで見た時のアルペジオ打鍵
「・」 その場合指連打 「∪」同じ指を滑らせて隣のキーを打つ時

印のついている部分は、手を動かさずに隣指または同指だけ動く部分です。印がついていない所だけが、指が（手も）大きく動きます。逆に言えば、印のない「空白部」が、手間や時間のかかる部分です。次の例文での「空白部の少なさ」をみてください。

「雪国」冒頭部——国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

右	O	Y	O	O	A	A	I	O	ん	E	U	O	U	E	U	O	Y	U	I	U	I	E	A	A
	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	
	・	・	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	
左	K	K	K	N	N	G	T	N	R	W	N	K	R	T	K	G	N	D	T	T				
	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	
	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	∪	

カタナ式の「流れるように打てる流麗さ」の秘密は、ここです（三章で他の配列と比較して深く議論します）。これは、右手部の配字と、濁音シフトで主要子音キーを減らしたことによります。これは長文であればあるほど効いてきて、最終的には一日に打てる文字数、疲労度に効いてくるでしょう。

○ 外来語子音、記号など

最後の仕上げに、外来語を打つのに必要なものと、各種記号を説明しておきましょう。

左手 V (シフトW) F (シフトP) J (C) 「っ」 CH (SH)

「・」(ナカグロ、シフト「,」)

右手 X (シフトBS)

「○」(シナリオでシーン先頭記号のマル、シフト「。」)

「」(カギカッコ開く閉じる一文字戻る)

「……」(三点リーダー二文字)

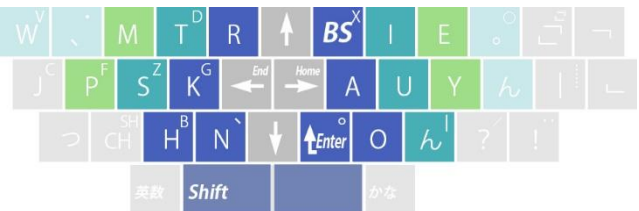
「? (/)」「! (:)」

各種記号は執筆に便利なものを用意しておきました。

XはYの変形という考えで右手バインドにしています(頻出でないことからシフトBSという特殊な位置にあります)。「ぁ」(xa)「ゃ」(xya)などの入力に使って下さい。Lは存在しません。

頻出する外来音のローマ字入力についてまとめます。最悪「一文字目＋X母音(または拗音)」で打てます(例「ジャ」を「zixya」で)。

ファ	ファイ	フェ	フォ	fa fi fe fo
ジャ	ジュ	ジョ	ja ju jo (dya dyu dyo 推奨)	
ツア	tsa	ツイ	tsi	
ヴァ	ヴァイ	ヴ	ヴェ	va vi vu ve vo
ウィ	ウェ	ウオ	wi we uxo (woが「を」のため)	



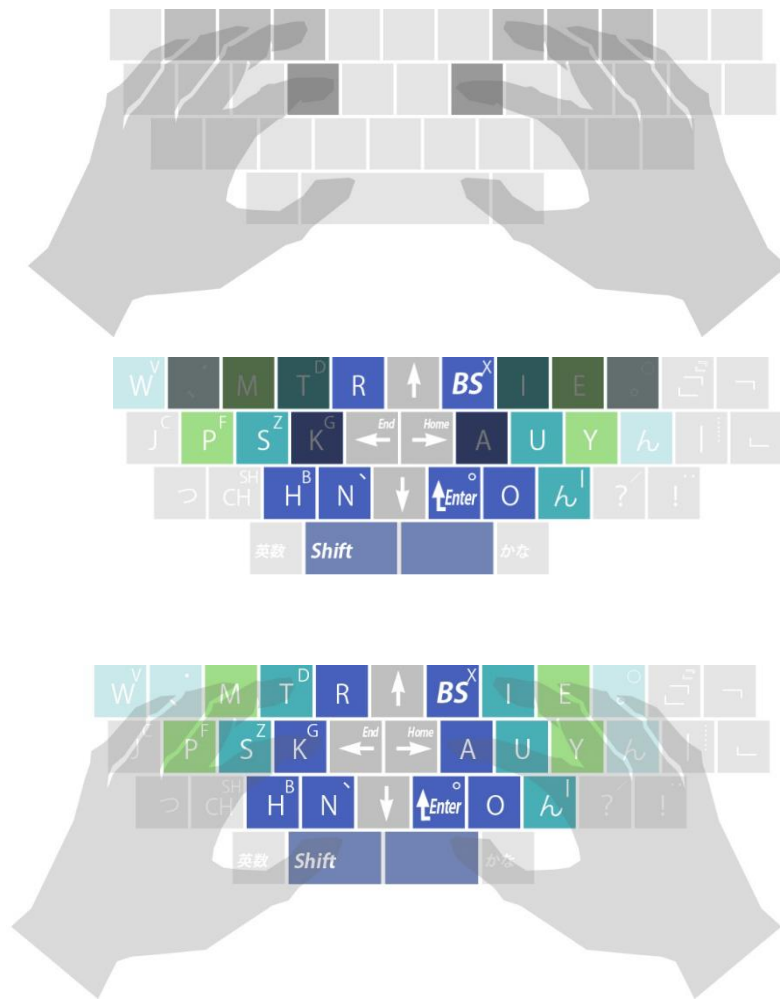
デフォルトにはないローマ字入力設定で、以下のものもカタナ式では定義しました。

テイ	tyi	txi (デフォは thi)	デイ	dyi	dx i (デフォは dhi)
トウ	txu	(デフォは twu)	ドウ	txu	(デフォは dwu)
スイ	syi	sxi (デフォは swi)	ズイ	zyi	zxi

「っ」は子音ふたつでは打ちにくい促音(「あっ」など)の時に「」活用ください。

○あとは、慣れるだけ！

カタナ式を使うのに便利なホームポジションを定義しました。指の形から、「翼ホームポジション」と命名。運指をイメージすれば、ここに指を置いておくと楽なことが想像できるでしょう。



長い時間打っていると、つい癖で一直線のホームポジションになりがちですが、なるべく翼ホームポジションは守りましょう。左右の人差し指と中指（TKAI）を守ると安定します。両肘をハの字にして脇を緩め、紙に字を書くときのように手をキーボードに向けてください。自然に四十五度に向かい、手は本来ハの字になるはずです。TKはキーの右端、AIはキーの下端に触ると、楽な姿勢になりますよ（表紙のカタナ式をよくみると、触るべき部分が少し欠けているのが分ると思います）。微妙に左右非対称なのは、QWERTYキーボードが左右非対称だから。仕様です……。

以後のオススメの練習法は、俳句や短歌を打ったり、好きな歌の歌詞を打つことです。

日本語として自然な言葉の組み合わせが、短く、沢山出てくるからです（英語が頻出する歌は避けましょう（笑）。たとえば「津軽海峡冬景色」などの演歌や昭和歌謡、フォーク

あたりの難易度がちょうどよいです。僕は昔のアニメや特撮の主題歌で練習しました。電車の中で、目についたポスターの言葉をとっさに打つイメトレなんてとてもいいです。

長文に挑戦したくなったら、自分の過去原稿を打ってみるのも良い手です。自分のボキヤブラリーだとやりやすいでしょう。

リズムのコツは、QWERTYのダララ、ダラララ……ッターン！と指が忙しい（けど文字数はあまり進まない）感じではなく、一文字打つのに二鍵「たた」と押して、それが「たたたたた……」と淡々と続く感じです。

そのうち「音単位」では、元のQWERTYと遜色ないスピードで打てるようになるでしょう。その先は、「言葉単位」「文章の流れ」で運指を覚える段階です（流れを覚えるのは、アルペジオの多さから、とても楽です）。意識より先に指が先回りするようになったら、スピードが乗って来るでしょう。そもそもそうやって、QWERTYをマスターしたことを思い出して下さい。ここまで二週間ぐらいかな。

途中で英語を打たなくてはならなかったり、QWERTYに戻らなくてはいけないことも多々あるでしょう。そのたびに指がごちゃごちゃになりますが、過渡期の症状だと考えてください。一か月もすれば使い分けができるようになってきます。

二週間もテスト打ちすれば、いよいよ実戦投入です。自分の思う文章をひたすら打つことです。いきなり原稿執筆だとハードルが高いので、プロットや短文メール、思ったことのメモやブログなどをカタナ式で書いていきましょう。「自分の中から出て来た言葉を打つ」のが一番いい経験になります。

また、「左手の子音パートだけ打ってみる」「右手の母音パートだけ打ってみる」というトレーニングもオススメです。特にブラインドタッチの練習に。

経験上、一万字を打てば手が覚えるでしょう。「カタナ式の導入コストは日本語一万字である」という言い方もできます。

一万字が「多い」という人は、多分普段長編を書いていない人です。

「なんだ、たった原稿用紙二十五枚か」と思える人は、カタナ式を必要としている人です。

おまけ「いろは課題」

次のことばは、五母音（A I U E O）と主要六子音（内側二列の R K N T S H。これだけで全子音の八十二％をカバー）の、「全て」を含むことばです（ときに Y 「ん」、M も）。練習用にどうぞ。

左手の子音パートだけ打ったり、右手の母音パートだけ打ったりなど、左右を分解練習するのも苦手な個所の洗い出しに便利です。

ブラインドタッチを始める時に、指位置を確認修正する、ルーチンワードとしても使えますよ。

殺された犬は	烏森の変態
怒鳴れハスキー	財布にとろてん
正統派のコンロ	ジャカルタへの道
そんな、出来る筈。	弾丸小僧にベルが鳴る
相当大変なコラ	静寂のほとり
春の天気さ	さくらの下へ
ヘリの誤作動	ダブルの惨劇
今日の閉鎖ルート	バンバンに光線出る
はんなり交際してん	テラスハウスに來い
露骨に特別	そっくりなデブ
象徴天皇制は、斬れ。	ろくでなしブルース
変態すぎるの	誰も知らない部下
バネがそっくりだ	値切る誕生日
ニヤン太郎はクズ	コロ助は泣いた
中村シフトね	田中広末
詭弁なら想定	病人助けてろ
講談社の憐憫	野原でキス
赤兎馬に乗る	昼カスタネット
今日の七変化ら	佐渡島ねぶる
しれっと日向夏	船ソロ大会
尻コレナンバートー	ラケット船橋
残念な頃の恥部	世間のつらい日
殿のしゃべくり	逃げ出したノブ
整形は泥沼	しゃれこうべにて

二、インストールと詳細仕様

カタナ式を動かすまでの設定方法と、詳細な仕様を書いておきます。マニュアルとしてお使い下さい。

Windows／日本語変換 Microsoft-IME／ローマ字入力／QWERTY キーボード（すべてデフォルト）用。キー配列変更アプリ Dvorakj 上で動いています。

（Dvorakj が Windows 専用なので、Mac のみなさんはごめんなさい）

縦書き専用です。横書きはカーソル移動の挙動（「」カギカッコ開く閉じ後の挙動と、シフトカーソルのバインド）がおかしいです。横書き対応版を待て。

なお、Dvorakj は、コピーしてダブルクリックするだけで使え（起動時に自動起動にも出来る）、USB などに入れて持ち運べる、レジストリをいじる必要のないキー配列変更ソフトです。複数のパソコン（共用、出先など）でも USB からコピーして、同じ設定で使えます。

Dvorakj とカタナ式（どちらもフリー）をダウンロードし、以下のように設定します。

Dv\trakj: blechnusik.xii.jp/dvorakj

カタナ式：カタナ式.txt

てんぐ探偵人物表.txt

（後者の人物表ファイルは、F₉ キーに登場人物名を割り当てる設定ファイルです。
ご自由に書き換えてご利用ください）

1 Dvorakj を置く場所を決めてください。Windows なら c ドライブ上、USB なら最上層かな。

2 起動し、設定を以下のようにいじって下さい（一度設定すれば、毎回頭設定で起動）。

入力全般

Sands なび 「Sands: [Space] 2 [Shift] の機能も担わせる」……オン

待機と遅延 日本語入力……20 ミリ秒

キーを発行させるのに遅延する時間……20 ミリ秒

(お使いのパソコン、アプリの速度、打ち手の素早さなどでも変わるので、色々変えてみて下さい。Dvorak]を再起動するとその設定になります)

I M E 関連

「I M E の状態の変更(直接入力と日本語入力の切り替え)」

……[Ctrl]+[Space]を、オン

修飾キー関連

「修飾キーを押し下げている場合に QWERTY 配列を使用する」

……オン

日本語入力

設定ファイル……Dvorak] フォルダの中の user の中に「カタナ式.txt」を入れ、それを選択

「日本語入力の設定／日本語入力配列を日本語入力時にのみ使用する」……オン

「[Shift]+[文字]のとき／未設定のときには何も発行しない」……オン

単一キー

[Esc]など

[Caps Lock] 直接入力時 ……「日本語入力にする」

日本語入力時 ……「直接入力にする」

[無変換]など

[無変換] 直接入力時 ……「直接入力にする」

日本語入力時 ……「直接入力にする」

[変換]

直接入力時 ……「日本語入力にする」

日本語入力時 ……「日本語入力にする」

ファンクションキー 「独自のファンクションキー」……オン

この設定を利用して、登場人物名をファンクションキーに登録できます。

user フォルダ下に「てんぐ探偵人物表.txt」を置き、選択。ファイル名も内容も自由に書き換えてください。

その他

起動時の設定

ログオン時に Dvorak] を起動する……オン

Dvorak] 起動時に設定画面を最小化する……オン

ホットキー

Dvorak] 用のホットキーを有効にする……オン

実行を停止する C- (全て半角。大文字 C、ハイフン、

アンダースコア)

実行を再開する C- (同、半角ニヨロ)

3 ワードなどを立ち上げ、原稿を縦書き設定にしてからお使い下さい。

また、この **Dvorak** フォルダを丸ごと USB に入れば、カタナ式を持ち運び、任意のパソコン上のデスクトップにコピーして使え、捨てれば元通り。

4 登場人物表は、長編を書くのに有用です。ファイルを複数作れば、複数を同時進行

で書けます（順次、コピーなどしてファイルを増やし、ファンクションキーに設定してください）。

カタナ式 詳細仕様

納刀 (カタナ式オフ) Shift+Ctrl+_ (アンダースコア) 元の QWERTY 配列に戻る
 抜刀 (カタナ式オン) Shift+Ctrl+~ (ニョロ) カタナ式配列へ

※ キーボードの右下と右上と覚えてね！

カタナ式中でも、英数モード中とCtrlを押している時は QWERTY 配列に戻る設定です (初期設定で変更可能)。

※ Ctrl+S, C, V, X, Z, F などはキー固定のまま！

かな入力 かなキー (元変換キー) かな入力モード (カタナ式配列) へ
 英数入力 英数キー (元無変換キー) 英数入力モード (QWERTY 配列) へ

※ Macライク。

かな／英数切替 Ctrl+スペースキー ※ Macライク。

Caps lock

Alt+半角／全角 ※ Winのデフォ。

スペースキー押したままだとシフトキーと同じ (Sands: スペースアンドシフト)。

ローマ字入力仕様

母音 A、I、U、E、O

撥音 「ん」キー (または nn)

長音 「ー」キー、または「AIE」「OUI」「AUY」「EUI」同時押し

拗音 子音+Y+母音 (kya で「きゃ」など) 「ぁ」など小さい母音は、X+文字

濁音になる子音 K、T、S、H (シフトで G、D、Z、B)

濁音にならない子音 N、R、M、W、P、Y

促音 「っ」キー (または子音ふたつ。sokka で「そっか」など)

外来語用子音 J、F、V、C

二重子音 CH、SH (「ち」は ti/chi、 「し」は si/shi、 「じ」は zi/ji、
 どちらもOK)

※ 「ー」以外はデフォに同じ。なお、L、Qはない。

記号

句読点「、」「。」「？」「！」「」（カギカッコ開く閉じ一文字
戻る）、「……」（三点リーダー二文字）、ナカグロ「・」、シーン先
頭記号マル「○」など。

濁音シフト逆順機能

「スペース（押したまま）＋K＋A」で「が」だが、スペース
が遅れて、「K＋スペース（押したまま）＋A」とタイプしても
「が」になる仕様。すべての濁音、濁拗音で。

外来語の独自入力

発音	独自	デフォ	※
テイ	tyi	txi	thi
ディ	dyi	dxi	dhi
トウ	txu	twu	
ドウ	txu	dwu	
スイ	syi	sxi	swi
ズイ	zyi	zxi	syi

はもと「ちい」だったが削除

はもと「ちい」だったが削除

● カタナ式で出来ないこと

「縦書きの日本語文章、特に物語」がカタナ式の想定文章です。便利さのために犠牲に
なった機能があります。いずれも縦書きではレアケースと判断しました。

半角英数

カタナ式から入力するには、英数モードからです。
ただし QWERTY 配列に戻ります（初期設定で英数時にもカタナ
式配列に変更可能）。

全角アルファベット

かなモード中、子音なら一文字打って変換。

母音は「エー」などの読みから変換。

大文字アルファベット

シフトが濁音用のため不可。変換で。

ないアルファベット

Q、L。ローマ字入力には使わない為。右同様。

ない記号入力

＋＊、；など。半角入力して、シフトカーソルで選択して変換。

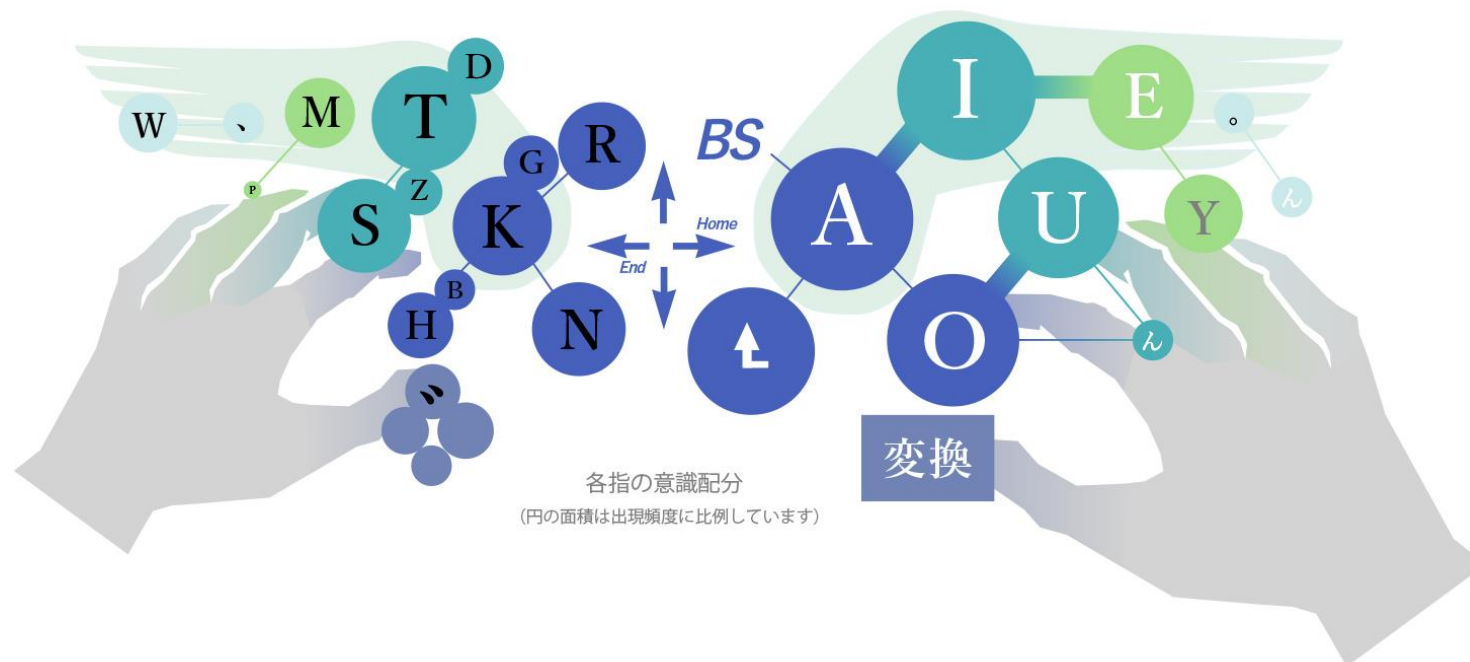
カタカナ直接入力

出来ません。ひらがな入力後、変換。

最悪カタナ式オフ↓元のIMEから入力↓カタナ式オンで対応してね。

付録1 意識配分表

各指の意識配分をイラストにしてみました。出現頻度に比例した円の大きさです。母音を結ぶ太い線は二重母音を示します。イメトレ用にどうぞ。

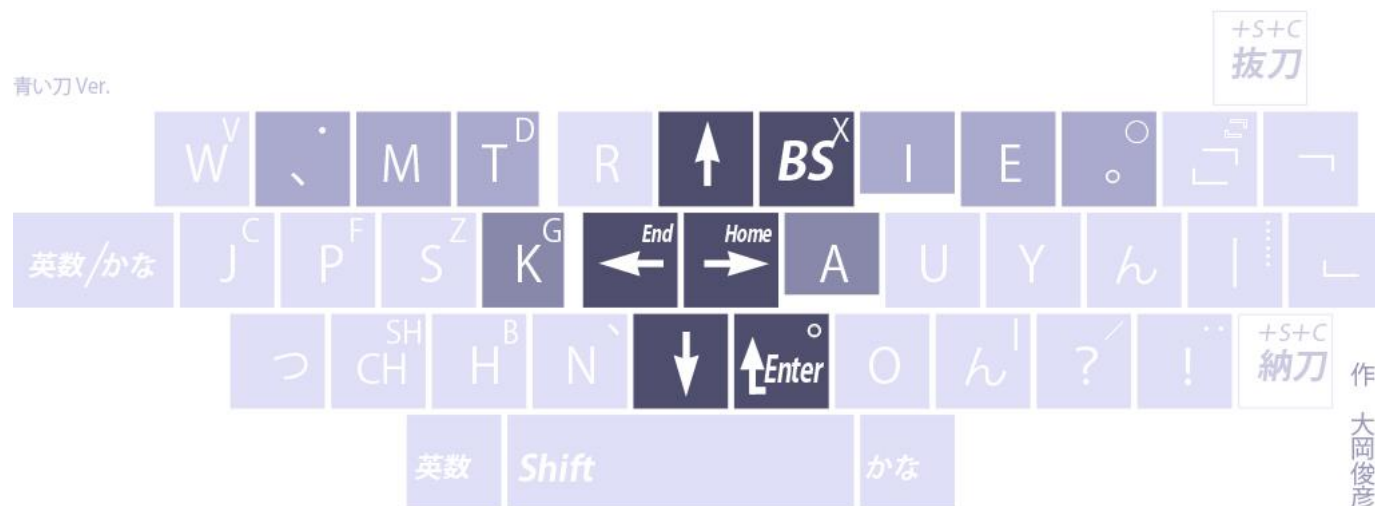


付録2 キーボードシール

物語を書くための配列

カタナ式

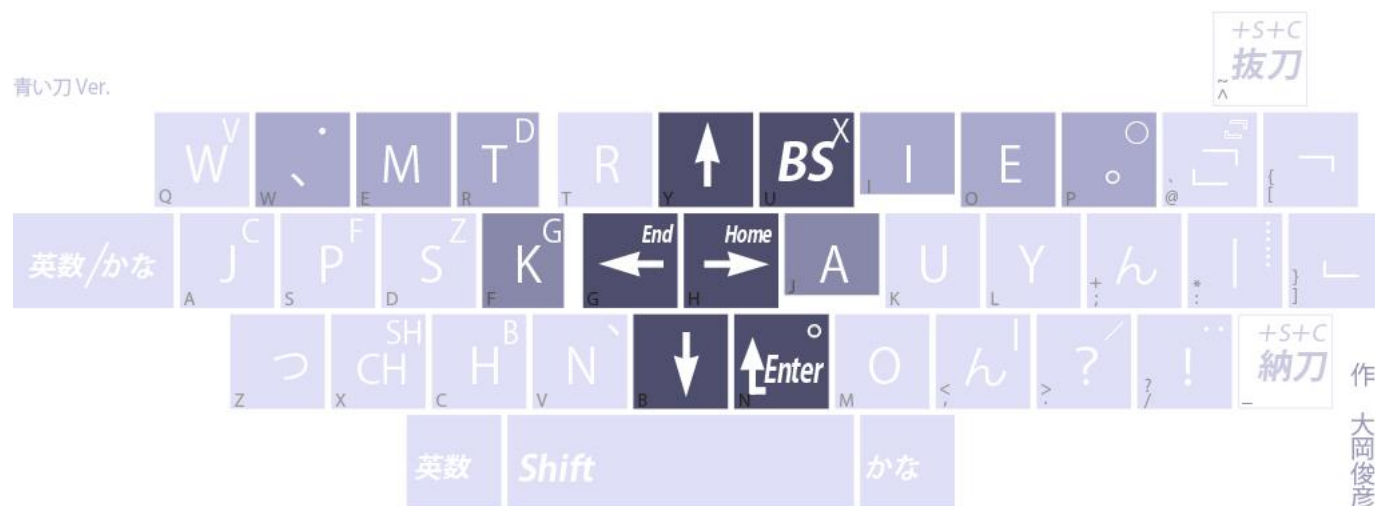
作 大岡俊彦



物語を書くための配列

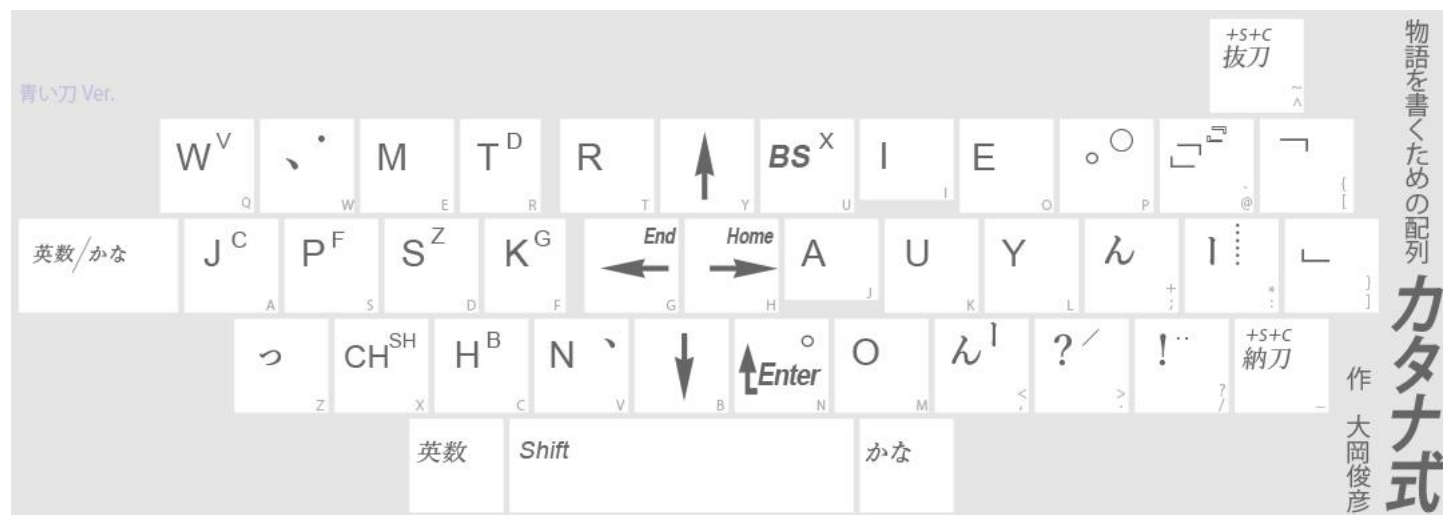
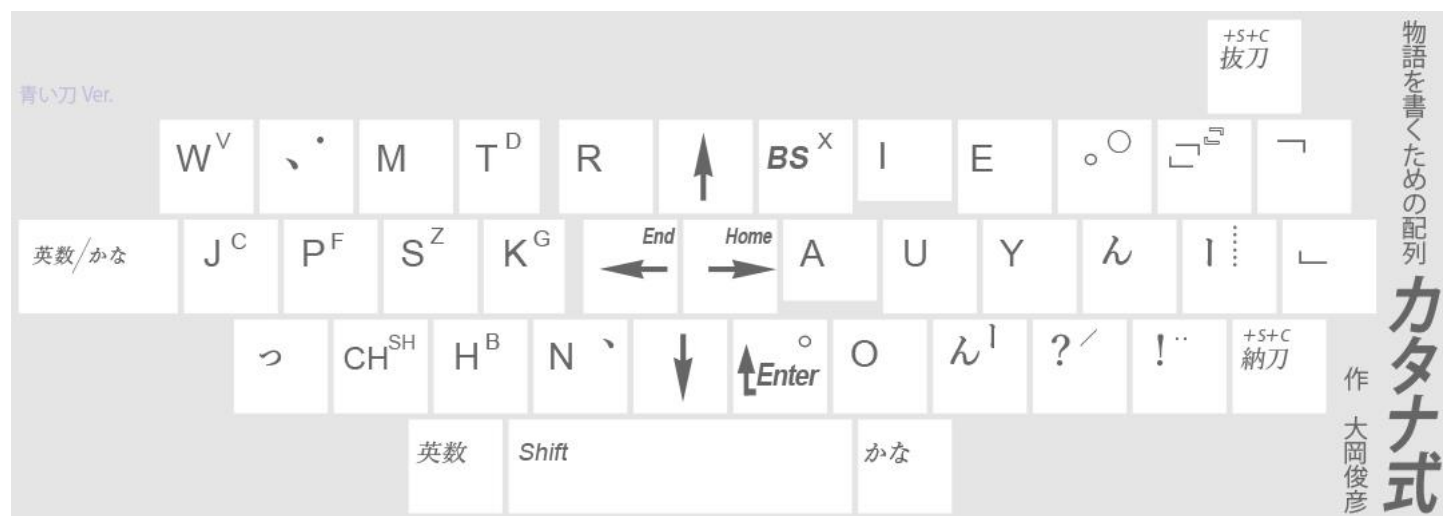
カタナ式

作 大岡俊彦



適宜拡大縮小してプリントアウトし、キーボードに貼ってください。**QWERTY** 併記ありなしの違いです。

デザイン違いです。お好きなものを。



用意するもの……カッター、貼ってはがせる糊

- 1 サイズを合わせてプリントアウトしたものを、カッターで切り抜き、キーボードに貼って下さい。
- 2 翼ホームポジションの4キー（TKAI）に、カッターや彫刻刀で線を入れたり、やすりで削るなどして立体的な手掛かりを作って下さい。ブラインドタッチの時便利です。左手のTKは内側（キーの右端）、右手のAIは下側に手がかりを。

- 3 紙を貼らずとも、キーを物理的に入れ替えたり（ノートパソコンなどのパンタグラフ式なら外すのは容易）、サンドペーパーで削ってマジックで書くなどして下さい。

- 4 安価なキーボードを購入し、カタナ式にキーを入れ替えた新キーボードと、旧キーボードを二枚使い分ける手もあります。バッファロー社のBSKBB22（白だとマジックで書ける）は、¥1500程度で買えるブルートゥースキーボードなので、捨てるつもりで試すのもアリ。ちなみに筆者はこれを愛用しています。



（筆者のリアルキーボード。キーを物理的に入れ替え、削り、マジックで書いています。何バージョンか試したので、ホームポジション用にキーが沢山削られており、「英数」「かな」だけ最初のシールを貼ったままです。油性マジックで書くと手油で溶けてゆくので、定期的に書き直すか、スプレーのようなものでコーティングすることをお勧めします。勿論作業するときはキーを外してからね！）

三、なぜカタナ式は速いのか？

キーボードは、ひとつじゃない。

それは僕が現状の日本語入力の手方に不満を持ち、いろいろ調べてから知ったことでした。

そもそも QWERTY 配列は「英語」圏のものでしかなく、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語キーボードなどでは、アルファベットは二十六文字でもないしその順番も違うことに驚きます（左上から順に現れる文字で、AZERTY 配列、QWERTZ 配列などと呼ばれます）。自国の言語にあわせてアレンジしている国と、現状維持で無思考の国があるということです。そもそも日本は「外国」といえばアメリカしかない時代が長かった歴史はありますが、二十一世紀にもなつて GHQ もないでしょう。オルタナティブは常に存在することを、忘れてはいけません。

無論、独自の日本語入力法を開発した先駆者たちは沢山いました。トロンキーボード、M式、親指シフトなど、ハードごとつくられた歴史が過去にあります。しかし「市場原理」に流されてしまい（コストや、流儀を変えることへの抵抗）、日本では QWERTY 配列＋ローマ字入力がデファクトな、嫌々の、スタンダードが現状です。

僕は昔から疑問でした。QWERTY は日本語入力に合理的じゃない。A の左小指が痛い（最初の音が、なぜ左小指？）。頻繁に使うエンターやバックスペースがなぜ右小指？（英語でエンターを打つのは段落を変える時だけなのに、「確定」の頻度とは同じでないだろうに！）そもそもホームポジションの f j を殆ど使わない。変換の度にいちいちカーソルまで腕を出張させなきゃ。効率が悪いったらないよ。パソコンは横書きメインかも知れないけど、そもそも日本語は縦書きだ。こんな不合理を嫌々使うことは、かなりの不合理な損失ではないか？

QWERTY 配列がどういう経緯で生まれ、支配的になったかはここでは触れませんが、それを改良したものはあまり知られていません。英語に関しては Dvorak 配列（1963 年）があり、タイプストの記録を持つことで知られます。

次図 QWERTY vs Dvorak

（アルファベットの頻度は、DvorakJP の HP から。以下同）



ホームポジションから色々所へ指が散るQWERTYに比べ、Dvorak配列はホームポジション列の中段に指の居場所がまとまっていて、改善が読み取れます。

しかしこの優位点を、ローマ字入力にそのまま持つてくることは出来ません。アルファベットの出現頻度は、言語が違えば全く違うからです。たとえば、英語ではEが最多ですが、日本語ではEは五母音中最も少なくAが最多です。さらに、母音そのものの頻度が英語より断然多くなります。英語のKYは出番が少なく、日本語では増えます。



Dvorakは左手中段に、英語では頻度の低い母音を集めたものです。しかし日本語の方が圧倒的に母音が使われる為、左手酷使の配列になってしまいます。

有志達が、この問題を解決しようとしてきました。

ハードごと作る者、親指シフトを現行キーボードで再現しようとする者（現在ニコラ配列として入手可能）、カナ入力を研究する者、ローマ字入力で合理的な配列を考える者。

現実的には、「カナ入力」か「ローマ字入力」の二択になります。「漢字コードを直接入

力する」のが慣れば最速ですが、我々は入力業じゃない。

一方の雄、「カナ入力」は、一打一文字が魅力です。打鍵数はローマ字の半分。疲れないでしょう。慣れたら速いでしょう。しかし五十音以上のキーを覚える必要があり、マスターするまでの敷居の高さが欠点でしょう。

10か11ある3段または4段のキーに、濁音半濁音ふくめて七十五以上のキーを、どう合理的に配置するかには、定まった見解はありません。結果的に「シフト駆使」が起きます。ニコラ配列（親指シフト）、中指ニコラ、花配列（中指シフトの元祖）、月配列（2ちゃんで練られたもの）、飛鳥配列、（新）下駄配列、蜂蜜小梅配列などなど。

一方の雄、ローマ字入力。打鍵数は倍ですが、覚えやすさ、移行のしやすさが魅力です。今更まつさらなことをやる時間はない、仕事と並行して移行したい、というのが殆どの人需要と、ぼくは踏みました（ぶっちゃけ、ローマ字入力にあまりにも慣れてしまっていたので、カナ入力は恐いという思い込みもありました）。

ローマ字入力用の配列には、QWERTYまたはDvorakをベースに、拡張入力を定義する（たとえば「ci」で「き」など）、AZIK、チーズタイピング、ACTOR、蒼星配列などがまぎ生まりました。これらは「ひとつの配列で英語日本語両方を打とう」と考えます。

次に、「日本語配列と英語配列はわけて考える」という合理が生まれます。「二種類の配列を、都度行き来すればよい」と考えたわけです。カタナ式はここに属します。「その配列内でも英語を打ちたい」と先祖返りする派閥もあります。

あとは、「何が合理的か」という、考え方の違いになってきます。

- ・ 中段一段（または二段、オブション）で入力する（つばめ配列、ひばり配列、すずめ配列、Phoenix配列。MOZ配列だけが「あいうえおホームポジション（カタナ式V1の馬蹄形に同じ）」という独自なものからの展開を想定）。
- ・ 左右の人差し指で母音、あとは子音（ろまカナ配列）。
- ・ 右手で母音、左手で子音（もつともポピュラーで、バリエーションも多い）。
- ・ 逆に左手母音、右手子音（Dvorakベースに見られる。ア段補完機能で母音を4つに減らしたカナガワ配列など）。

バリエーションの多い三番目、いわゆる「左右交互打鍵、行段系（右手母音、左手子音）」を、カタナ式と比較してみましょう。

SKY配列、K m式配列、きゅうり改、和ならば配列、市式（仮）配列、やつがしら配列V2、いぬふぐり配列、けいならば配列をとりあげます。

次図 さまざまな配列と頻度比較

それぞれの日本語でのキー頻度を計算し、色分けしています。「ホームポジションに指が集中しているか」「各指の頻度が均等か、人差し指から小指に単調減少しているか」がみるべきところでしょう。

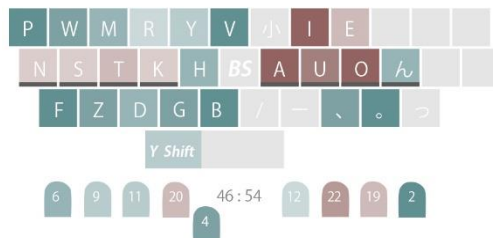
きゅうり改配列



SKY 配列



いぬふぐり配列



和ならべ配列



Km 式配列



けいならべ配列



市式仮配列



やつがしら配列 v2



細かく見ていきます。左右交互打鍵の母型となるのは、S K Y配列とK m式配列だと考えます。どちらも子音は「K S T N」と五十音順ですが、母音部が異なります。一列にホーム中段とするか、二段に積んで台形とするかです。前者はピアノリストのようなブラインドタイプー向きでしょう。後者は、二重母音がとても打ちやすい配置です。それゆえ、亜種にはこの配置が多いです（カタナ式も、~~N~~まではこれと同じでした）。

S K Yでは母音部に二重母音と「母音+ん」があります。「ん」があると、子音のNの出番を減らせるのです。「ん」のないK m式では、左小指のNの負担が気になります。

この母型からの発展は、左手をどう快適にしていくなかの差だと考えられます。五十音順「K S T N」が頻度順ではないからです。N V T V K H Sです（「ん」を設置すればT V K H S H Nに）。次点で頻度の高いR Yをどこに置くかも注目ポイントです。

カタナ式が独自の考えであるのは、「横一直線の従来のホームポジションを、ベストと考えない」ことだと思います。僕は薬指も小指も信用しません。人差し指が一番信用できます。中指はその次。できればそれだけで打てるのがいいと考えました。また、僕は左手も信用してません。右手の方が倍は器用です。従来のホームポジションは、八指が均等に動くように訓練された、ピアノリストやタイピストの為のものです。僕は、出来るなら右手の人差し指一本で渡っていききたい。せめて、ペンを使うような指の配分をしたい。



カタナ式の頻度表がこれです。右手人差し指と中指に半分を負わせた、特異なバランスです。薬指と小指の負担が極端に少ないのもカタナ式の特長です。そういえばパソコンのキーボードに触る前は、こんな意識配分じゃなかったっけ？ 指の「無意識な器用さ」に比例した頻度だと僕は考えます。

台形型の母音配置はE Oが薬指なので、薬指が10%後半台も使われてしまうのが欠点です（K m式、和ならば、市式、やつがしら、けいならば、いぬふぐり全てに共通）。カタナ

式^ㄅが「青い刀」に改造された最大の理由がここです。台形母音は「薬指が痛い」のです。左手の子音部も見えておきましょう。GDZBPをどう配置しているか、各配列を見てください。規則的に配置して覚えやすくしているもの、頻度に合わせて規則を崩しているものなどさまざまです。いずれにせよ、濁音シフトで子音数を減らし、結果左手のアルペジオが多数増えたカタナ式の優位性には及びません。

一章で議論したように、「雪国」冒頭文を、SKY、Km式、カタナ式で比較し、指のなめらかさを見てみましょう。

SKY配列

・
 O O U O A A I O N E U O U E U O U I U I E A A
 ・
 K K K Y N N G T N R W N K R T Y K G N D T T

Km式配列

・
 O O U O A A I O E U O U E U O U I U I
 ・
 K K K Y N N G T N N N R W N K R T Y K G N
 ・
 E A A
 ・
 D T T

カタナ式

・
 O Y O U O A A I O ん E U O U E U O Y U I U I E A A
 ・
 K K K N N G T N R W N K R T K G N D T T

カタナ式の指連携の濃さが見て取れます。Km式は母音部の連携が素晴らしいですが、カタナ式の母音部は、Yと「ん」の連携ぶんさらに上回ります。子音部では打鍵数当たりアルペジオ率が最も高く（それぞれ0.45, 0.63, 0.7）、連携の良さが浮き彫りとなりました。印のない所が逆に「手や指が移動する」所でした。カタナ式はロス時間が極めて少ない、または打鍵時間が同じでも「楽な」配列だと結論付けられるでしょう。

当然ですが、これはまだ「音の入力」に過ぎず、文章の変換、確定までを視野に入れて
いません。カタナ式は、さらにここから各式を引き離すでしょう。

ちなみに、QWERTY 配列をってみました。

右手 K O K K Y O U N O N I O N N U O N U K

左手

A G A T E R W

U O O K O H Y U K I U N I
E R T S A G D E A T T A

右手に偏ったり左手に偏ったりしています。その間もう一方の手は何もしていないわけ
で、その分無駄が多いと考えます。ただし、片手アルペジオの発生頻度に注目したいです。
実はこのせいで QWERTY の文字打ちが「さほど問題ないスピードだと誤解する」のに一
役買っていると考えます。QWERTY は「手が忙しく仕事をしていると勘違いしやすい配列」
なのです（確定エンターの「ッターン！」の気持ちよさも含め）。実際は無駄な時間（印の
ついていない所）が大量に過ぎているにも関わらず。

さいごに。

これでベストとは限りません。「人によって文体が違うから、その人に合ったカスタムの
ベストがあるはず」という意見もあります。Dvorak のスク립トが読める人は、カタナ式
のソースを改良するのも OK です。作品によって万年筆を変える文豪もいます。配列もそ
うあっていいと思います。現状の配列は、常に「現在の一歩のおもいつき」にすぎません。

ちなみに一か月、二万字ぐらいの訓練で、作者は 560 字/10 分（原稿用紙換算では空白や
改行も全て含むので 630 字/10 分）の平均巡航速度を出しており、自分の QWERTY 配列で
の最高速の 5% 増し（まだ速くなり中）、という報告で本稿を締めたいと思います。

さて。カタナ式で「カタナ式」と入力してみてください。右手母音・左手子音、頻出キ
ーが中央にあること、左右のアルペジオ、変換と候補選択・決定。この配列の目指した理
想の一連の流れが、この名前にこめられていることに気づくでしょう。